

寒い日が続きます。風邪をひかないように注意しましょう。

／／／／ I N D E X ／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／

- ・ ISO 関連解説-----マスバランスモデルの規格番号が変わりました
- ・ LCA の実務 mini 39---フィードストックエネルギー？
- ・ LCAF からお知らせ--- 3 月までイベントがたくさんです。
- ・ 編集後記-----絵

■■■ ISO 関連解説： マスバランスモデルの規格番号が変わりました ■■■

○もうすぐ発行される ISO 13662/FDIS (マスバランスモデル) が ISO 22095-2 に、ISO 13659/FDIS (ブック&クレイムモデル) が ISO 22095-3 になりました。これらの規格は、ISO 22095:2020 (加工流通過程の管理アプローチ) 中の「モデル 4 : マスバランスモデル」と「モデル 5 : ブック&クレイムモデル」の詳細版なので親元の ISO 22095:2020 との関係を明確にするためです。

この規格番号の変更は WG の投票で決まりました。しかし、ISO 14068 (カーボンニュートラリティ) が発行される時に WG に何の相談もなく、中央事務局によって ISO 14068-1 (ネットゼロカーボンニュートラリティ) に変更されてしまったことがあるので、このまますんなり行くか注視する必要があります。

■■■LCA の実務 mini 39： フィードストックエネルギー？ ■■■

「フィードストックカーボン(Feedstock carbon)」をご存じですか？ 「エンボデッドカーボン(Embodied carbon)」とも言います。プラスチックなど化学製品に含まれる炭素のことです。化学製品の多くは石油(原油)から作られます。同時に石油由来の燃料をエネルギーとして消費します。つまり、化学製品の製造システムを大きく括ると、システムに投入された石油に含まれる炭素の大部分は CO₂ として排出され、製品に残る炭素はごく一部ということになります。この製品に残った炭素をフィードストックカーボンといいます。システム全体の炭素バランスを分析するときの言葉です。しかし最近、LCA 用のソフトウェアが発展し CO₂ 排出量を素早く計算して済ませることが多くなったので、システム全体の炭素バランスを気にする人が少なくなりました。フィードストックカーボンという言葉もほとんど聞かなくなりました。

この延長として、システムへの石油由来の投入量をエネルギーに換算し、製品に残ったエネルギーを「フィードストックエネルギー」と呼ぶことがあります。投入した石油のエネルギーの中で、製品に残るエネルギー(つまりは製品の燃焼熱)のことです。

「フィードストックエネルギー」という言葉は、最近、プラスチックのリサイクルの評価で引きとったプラスチック廃棄物の燃焼熱という意味で使われることがあるようです。同じ用語でも、使われる場面が時代とともに変わるようです。

■■■ LCAF からのお知らせ： 2 月末までイベントがたくさんです。 ■■■

○1 月 30 日(金)の午後に LCA 日本フォーラム主催の「国際動向セミナー」があります。私(稲葉)は TC207/SC3&SC5 対応国内委員会の委員長なので ISO/DIS 14021(タイプ II 自己宣言環境ラベル)と ISO/WD 14077(CoC の LCA への適用)の進捗状況を報告します。また、TC207/SC7 対応国内委員会の委員長である(一財)エネルギー経済研究所の工藤さんが、GHG プロトコルと協働で発行することになった ISO14064-1(組織のカーボンフットプリント(CFP))と ISO14067(製品の CFP)の進捗状況を説明します。LCA 日本フォーラム会員と日本 LCA 学会員は無料です。

<<https://www.lca-forum.org/seminar/index.htm>>

○2 月 4 日(水)午前 ISO14077(CoC の LCA での適用)の議長であるベルリン工科大学のマテアス フィンケバイナー教授を招いて、作業の進捗状況をご紹介いただく「LCAF 特別セミナー LCA でのマスバランスモデルの適用： ISO14077 の論点」を行います。ランチブッフェもあります。皆さんの CoC の活用状況を ISO の作業に伝える良い機会と思います。ご参加ください。

<https://lcaf.or.jp/lcaf_seminar20260204/>

○2月14日（土）にLCA中級検定試験を実施します。勉強の成果を確認してください。
<https://lcaf.or.jp/education/test/arc_middle/>

○2月16日（月）に稲葉の内閣総理大臣賞の受賞記念講演会を行います。

稲葉が令和7年度産業標準化事業表彰の内閣総理大臣表彰を授賞しました。勝手ながらこれを記念して市ヶ谷の私学会館で講演会をパーティ付きで行います。受賞対象になったISOの活動を中心に稲葉が話し、お集まりいただいた皆さんから昔話を含めてコメントをいただきます。日程を確保してご参加いただけるとうれしいです。

<https://lcaf.or.jp/memorial_party/>

○2月18日（水）午後にCFP算定研修（基礎編）を行います。

カーボンフットプリント（CFP）の算定の基礎研修です。CFPはLCAを基礎としますので、最初の一部がLCA初級研修と重なりますが、復習する機会としてご利用ください。

<https://lcaf.or.jp/education/training/lca_cfp/>

○3月18日（水）午後に実務者研修を行います。昨年度に始めた「LCAF実務者研修シリーズ」の3回目です。廃プラスチックの利用や削減貢献量の評価はコンセクエンシャルLCAで行うという意見があります。コンセクエンシャルLCAや、循環型社会とサーキュラーエコノミーの関係、また上述の2月～3月のイベントの内容も加えてマスマンズモデルに関する最近の活動を整理します。「LCAF実務者研修シリーズ」ではLCAに関する最先端の活動や話題を紹介し、今後の展望を皆さんと議論します。もうすぐLCAFホームページでご案内します。LCAに関する最新の情報を整理する機会としてご利用ください。

○[再掲です] グリーンウォッシュの本を和訳しました。

・「地球にやさしい？一偉大なるグリーンウォッシュ」が丸善出版からでました。3,190円（税込）です。書評（感想文）を募集中です。まだ1件しか来ていません。ご協力をお願いします。

○[再掲です] 新しい参考図書「基礎から学ぶLCA～LCAの実施と活用～」を発行しました。

以下からお申込みください。（3,000円+税+送料）です。

<https://lcaf.or.jp/education/textbook/>

■■ 編集後記：絵 ■■

ISOの会議へ参加する海外出張では会議の期間しか現地に行ることができませんので、海外の美術館に行くことなどとてもできませんが、以前は研究のための「〇〇調査」や「学会参加」のすきま時間で美術館に行くことがありました。

絵画を見るのが楽しみになったのは、かなり年齢を重ねてミラノでレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」の壁画を見てからです。400年以上も前の傑作に唾然としました。アメリカに滞在した時も、ウィーンに滞在した時も絵画には関心がなかったもので、今思えばもったいないことをしました。

「世界の名画1000の偉業」という本を見つけ、死ぬまでに全部見たいと思いました。フィレンツェのウフィツェ、ベネチアのアカデミア、マドリードのプラド、パリのルーブルとオルセー、イギリスのナショナルとテート、ニューヨークのメトロポリタン、およびそれぞれの周辺の美術館を含めると、数えたことはありませんが700点くらいは見たと思います。残念ですが、サンクトペテルブルクのエルミターージュとモスクワの美術館に行く機会は、多分もうないだろうと思います。

COP（気候変動枠組条約締約国会議）に参加したのは1度しかありません。それが2018年ポーランド開催されたCOP24であり、開催地のカトヴィツェのホテルがなく、隣町のクラクフ泊になったのは偶然とは言え幸せでした。レオナルド・ダ・ヴィンチの『白貂（しろてん）を抱く貴婦人』を見ることができたからです。この美術館はこの絵のためだけにある様でした。

この絵もナチスに接収され、しばらく行方が分からなかったと聞きます。ロンドンでは空襲を逃れるために地下鉄の駅に絵画を避難させ、オーストリアでは岩塩鉱に隠したそうです。貴重な文化財を政策や宗教のために破壊するのは愚かなことです。

「世界の名画1000の偉業」の残りの150枚くらいは「個人蔵」です。私たちは見ることができ

ない絵です。そういえば、バブルの頃にゴッホとルノワールの絵を買って、「死んだら棺桶に入れてもらうつもり」と言った某製紙会社の社長がいました。文化的価値を個人のものにする感覚でしょう。私の地元の企業で私に奨学金を出してくれた企業なので、とても残念に思いました。

現在の美術館で見ることができる絵は、もともと王様やお金持ちが集めた絵ですね。大儲けしている企業やお金持ちには良い絵をどんどん買ってもらって、みんなに見せてほしいと思います。日本にもそういう文化的活動をしている企業がありますね。応援します。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

ご意見, ご感想, この「LCAF 通信」の配信停止のご連絡はこちらまで
lcaf-contact@lcaf.or.jp

一般社団法人 日本 LCA 推進機構

Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)

(エルカフと呼んで(読んで)ください)

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-10-2 渡辺ビル 5F

電子メール: a.inaba@lcaf.or.jp

電話: 090-1423-0863

URL: <http://lcaf.or.jp/>